

## 1 単元名 大事なことをたしかめよう ～「すがたをかえる大豆」～

## 2 目標

- 姿を変えたことによって身近な食べ物になっている大豆の、姿を変える工夫や工程などの知識を得るとともに、様々な食べ物の姿の変え方について興味を広げようとする。(国語への関心・意欲・態度)
- 大豆が姿を変える様子を文章から読み取ることができるようになる。(読む能力)
- 自分で興味を持った食べ物について調べ、文章の組み立てを考えながら説明文を書くことができるようになる。(書く能力)

## 3 単元構成(全14時間)

第一次 「すがたをかえる大豆」を読み、大まかな内容と構成をつかむ。学習の見通しを持つとともに、読みの課題を持つことができる。(2時間)

第二次 大豆をおいしく食べるための工夫と食品を整理し、文章をもとに確認する。(7時間)

第1時 「話題提示」と「大豆の紹介」を読み取る。

第2時 「大豆をおいしく食べるための工夫」について③④⑤段落を読み取る。(本時)

第3時 「大豆をおいしく食べるための工夫」について⑥⑦段落を読み取る。

第4時 「終わり」の部分を読み取る。

第5時 文章のはじめ、中、終わりの分け方を理解し、書くことに役立てようとする。

第三次 「食べ物はかせになろう」を読み、自分が調べた食べ物について情報を整理・活用して食べ物ブックを作る。(7時間)

## 4 指導上の立場

## ○教材について

本単元の学習は、説明文を段落やキーワード、接続詞などに注意しながら読む学習と、自分で調べたい食品について説明文を書く学習の二つから構成されている。これまでに学習してきた説明文教材は、二年生「たんぼぼのちえ」が時間的順序の文章、「サンゴの海の生き物たち」が解説型の文章、三年生「ありの行列」が仮説—検証型の文章とされる。本単元の教材文は解説型の文章なので、1学期に学習した「ありの行列」との文章構成の相違点についても触れたい。

「すがたをかえる大豆」は、身近な大豆に手を加えることで様々な食品ができることが「工夫」として書かれており、児童は驚きと関心を持って読み進めることができる。第二次では大豆をおいしく食べるための工夫と食品についての読み取りとともに、説明文の書き方や表現の仕方を学び、第三次でそれらを活用して自分で調べた食べ物についてまとめる力をつけていきたいと考える。

## ○児童について

削除しています。

## ○具体的な指導の手立てについて

研究主題をもとに、中学年の目標は、「自分の思いや考えを持ち、それを相手に伝える」と設定した。第一次では、本文を読むとともに、大豆食品の写真を見せたり、普段の給食などから大豆食品を見つけたりすることによって、大豆がいかにか身近な食べ物なのか、驚きを持たせたい。そして、どうやって大豆が変身するのかについて関心を持てるようにする。第二次では、自分の思いを持たせるために、1人読みの時間をとって書き込み用本文にサイドラインを引き、わかったことや理由を書く活動を位置づけている。その際サイドラインの約束やサイドラインを引く効果なども読み取りのために考えさせたい。話し合いでは、中心となる語句を押さえてお互いに分かりやすく言い換えたり、加工の工程の意味を考えたりする。サイドラインの中で何が大切なのかを考えていくための発問も工夫して、思いを深めていけるようにする。第三次では、もっといろいろな食品について調べてみたいという思いを活かし、学校図書館司書とも連携して食べ物ブックにまとめる活動を行う。その際、順序を表す接続詞に気をつけさせ、変身の工程をわかりやすく表現できるように支援をしていきたい。

5 本時案 (第二次 第3時)

目標	大豆を使った食品について,おいしく食べる工夫を読み取ることができる。	
学習活動	教師の支援と指導上の留意点	評価
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <p>2 めあてについて自分の考えを持つ。</p> <p>3 考えを話し合う。</p> <p>4 本時のまとめをする。</p>	<p>○前時の学習を確認し,本時では,大豆をいろいろな食品に加工していく手立てを「へんしんのひみつ」として読んでいくことを伝える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">大豆のへんしんのひみつを見つけよう。</div> <p>○本時の学習場面(形式段落③～⑤)を音読させる。</p> <p>○「ひみつ」が書かれている部分にサイドラインを引いたり,中心となる語句を囲んだりすることでめあてに対する考えを持ちやすくする。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">～予想される児童の考え～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大豆をその形のままいたり,にたりしてやわらかく,おいしくする</li> <li>・いると,豆まきに使う豆になります。</li> <li>・水につけてやわらかくしてからにする</li> <li>・こなにひいて食べるくふう <span style="float: right;">など</span></li> </ul> </div> <p>○机間指導を行い,「ひみつ」をみつけにくい児童には,大豆をどうすればおいしく食べられるのかを考えさせる。また,長くサイドラインを引いている児童には,中心となる語句に着目させるようにする。</p> <p>○みつけた「ひみつ」への付け加えや,自分なりの驚き,発見などを書き込み用本文に言葉などで書き込むことができるようにする。</p> <p>○自分の考えを隣の人と話し合う。書き込みの内容も発表し,意見を交流する。</p> <p>○出た意見を,全体の場で発表する。本文のどこにあたるのかをきちんと言わせ,板書でも確認しながら進める。</p> <p>○大豆を加工するときの「いる」「にる」「ひく」などの言葉を文脈の中で捉えさせる。</p> <p>○黒板に加工の工程の挿絵や写真を掲示し,言葉を書き込むことで,全員がそれぞれの加工をイメージできるようにする。</p> <p>○挿絵や絵をもとにイメージした加工の工程を文章の中で確かめ,だんだんと複雑になっていることに文章表現からも気づかせる。その際,「いちばんわかりやすいのは」の部分がヒントになっていることに注目させる。</p> <p>○一つの段落で一つの工夫が述べられていることに気づくように板書の工夫をする。</p> <p>○今日の学習内容をお家の人に伝える手紙にし,数人の児童に発表させ,本時の学習内容の確認をする。</p> <p>○「大豆のへんしんのひみつはまだまだありそうだね。」と投げかけ,次時の活動への意欲づけにしたい。</p>	<p>A:友だちの意見をもとにわかったことを書くことができる。 (書き込み用本文・発表)</p> <p>B:わかったことを書くことができる。 (書き込み用本文・発表)</p>
資料・準備物等	前時の掲示物・書き込み用本文	